

〈平成28年度第1回千葉県体育学会 発表抄録〉

一般研究

4歳児における下肢の柔軟性と長座体前屈との関係について

- 斉藤あかね（千葉大学人文社会科学研究所 地域文化形成専攻 地域スポーツ学）、
小泉佳右（千葉大学国際教養学部）

【背景】幼児期における下肢関節可動域や長座体前屈の計測について検討したものはほとんどみられない。さらに、この時期の下肢柔軟性と運動動作との関係性についての調査は少ない。

【目的】幼児期の下肢関節可動域と長座体前屈、運動動作との関係について検討することを目的とした。

【方法】対象は4歳児17人であった。関節可動域はゴニオメーターで、長座体前屈はデジタル長座位体前屈計で測定した。運動動作は走る、跳ぶ、転がる、投げる、を質的評価分類し、またしゃがみこみと片足立ちも調査した。

【結果】SLR 角度、足関節背屈角度および長座体前屈のそれぞれに、有意で高い相関を認めた ($p < 0.05$)。柔軟性項目と運動動作項目の間にはすべてにおいて有意な相関を認めなかった。

【結論】4歳児において長座体前屈は下肢柔軟性を把握する有効な測定方法と示唆された。また、その下肢柔軟性と運動動作との関連はみられなかった。

総合型地域スポーツクラブの経営に関する一考察

～クラブと大学との関わりに着目して

- 馬場宏輝（帝京平成大学）

総合型クラブは、平成27年7月現在で1,394の市区町村に3,550のクラブが育成されている（文部科学省）との報告がある。一方で、大学を核（拠点）とした総合型クラブは、全国で26程度存在するといわれている。筆者の勤務する帝京平成大学では「帝京平成スポーツアカデミー」という総合型クラブを運営している。総合型クラブに関する研究は多数あるが、学生や学生の関わりに着目した研究はあまり見受けられないことから、大学を核（拠点）とした総合型クラブにアンケート調査を行った。その結果、大学内に事務局があり、理事・役員の大半は大学関係者であるのが12クラブ中4クラブ。クラブ代表者が大学関係者であるのが12クラブ中10クラブ。学生のクラブでの活動を

単位認定しているのは 12 大学中 2 大学。学生に対する研修プログラムを特に行っていないのが 12 大学中 9 大学であることが分かった。今後、さらに大学・学生にヒアリング調査を行いたい

実践報告

プロスポーツにおける集客と学生教育について～千葉ロッテマリーンズスポーツカレッジの取り組みから

○菊地瑞希（帝京平成大学地域医療学部医療スポーツ学科）、馬場宏輝（帝京平成大学）

プロスポーツの収益は、スポンサー・放映権料・グッズ・チケットの 4 つがある。マリーンズではチケットでの収入を増やそうと考えた。また、学生のスポーツ離れを指摘されていることから学生のファンを増やそうと考えた。そこで、マリーンズスポーツカレッジ（以下 MSC）という球団公式のインターンシッププログラムが 2013 年よりスタートした。学生のファンを増やすだけでなく、家族や友人へと広げていく目的もある。MSC には、大学生・大学院生・専門学生が参加可能で現在 8 つのチームが存在する。それぞれ女性に向けた活動・大学生への活動などターゲットを絞りそのターゲットに向けた活動を行っている。また、スポーツカレッジを行う理由として、学生教育というのも挙げている。スポーツビジネス、地域活性活動を学びたい学生に場を提供することで学生が企画・運営の経験を積み、プロスポーツビジネス業界の人材育成をと掲げている。今後集客の面では、観客数の調査や観戦者へのアンケート、学生教育の面ではカレッジ生の就職先や卒業生・現役生へのアンケートを行いたい。

2015 年ラグビーワールドカップから 2019 年ワールドカップ、そして 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けて

○廣瀬恒平（国際武道大学）

2015年に開催された第8回ラグビーワールドカップ・イングランド大会を振り返り、2019年に日本で開催されるワールドカップ、そして2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の成功に向けて、どのような貢献ができるのかを検討した。

イングランド大会は観客動員数が247万人を超え、4千億円の経済効果があり、訪れた外国人は46万人であったと報告されている。日本大会においても海外から訪れる人

を含め、多くの観客が試合を観戦してくれることが期待される。

日本ラグビー協会普及育成部門によると、年代別では高校生の競技者数が約26000人と最も多いが、これが大学生になると約5000人減少し、改善が必要であると指摘している。

大学ラグビーに携わる研究者らで構成される「大学ラグビー教育研究会」では、大会成功に向けて目の肥えた観戦者を育成することを目指し、ラグビーを専門としない大学生に対して、文化や精神に関する内容を含めたラグビーについての教育を行う活動を展開しており、今後は演習や自由科目等の授業の中でさらに発展させていく予定である。